時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

# 時事新報

明治廿七年三月三十日　金曜日
舊暦甲午二月廿四日（辛未）

（西暦一千八百九十四年）
年始より年末まで　二百七十六日　八十九日

| 月 | 日 | 出入 | 潮 |
|---|---|---|---|
| 二 | 十一 | 午前十一時四十分 | 午後十時二十分 |
| 二 | 十二 | 午前十一時四十二分 | 午後十一時二十分 |
| 二 | 十三 | 午前十一時四十三分 | 午後十一時二十分 |
| 二 | 十四 | 午前十一時四十五分 | 午後十一時二十分 |
| 二 | 十五 | 午前十一時四十九分 | 午後十一時二十分 |
| 二 | 十六 | 午前十一時五十二分 | 午後十一時二十分 |

廣告料定價　時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる筈なれども取次人の内には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絶する事もあるべき筈に付豫め廣告依頼者諸君に公告す

本社（寄稿に付東京府下を始め各府縣に通信社なるものの各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報社に送したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

## 名家洋畫十二ケ月

國洋の畫を學ぶ者寡からず其道に達し其技に熟しくる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絶する事に付豫め廣告依頼者諸君に公告す

## 東京府下の十二名家

び之に十二箇月を割當て其長する所に從て毎月其西にある洋畫の揮毫を請ひ之を美麗なる彩色石版刷毎月初旬時事新報の附錄として平生の愛讀者にする事と爲し來る四月を以て始め來年三月に至り此十二箇月の洋畫、孰れも名家の手に成りたなれば四季折々に室内の裝飾として大に讀者の心樂しめ且つ我國此美術の進歩を察するの具たる

## 來る四月五日第一附錄

家の揮毫を石版に印刷し毎月附錄として時事新讀者に配布する其第一回は來る四月五日を以て其書題並に畫家は

## 櫻狩　淺井忠氏

新報、臨時の購讀者よりは定價五錢（東京市外春風駘蕩の好時節、此畫に對すれば身は忽ち百の中に入りて魂飛び魄躍るの想ひあるべし

時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物告あり其代價は左の如し（府外遞送には此他後に掲ぐる遞送料を要す）

前金五拾錢〇三箇月　前金壹圓四拾五錢〇六箇月　前金壹圓八拾五錢〇一箇月　前金五圓六拾錢〇月賦日休刊（此他大祭祝日年末等一切休刊セズ）

一旦受取りたる前金は凡て通貨を以て返戻すなく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の廣告を以て勘定する事と御承知被下度候

時事新報遞送料

日本國内並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山港　一箇月　金拾三錢
南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て歐洲に遞送する歐洲各國　一箇月　金六拾錢
北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋　一箇月　金三拾錢
香港を經て歐洲に遞送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲　一箇月　金六拾五錢
露領浦潮斯德、清國諸港　一箇月　金三拾五錢

時事新報廣告料（前金）

| 一行金錢 | 一行金錢 | 一日限 | 一日以上 | 七日以上 |
|---|---|---|---|---|
| 一行 | 二行 | 十三錢 | 十一錢 | 十錢五厘 |

## 時事新報

## 銀の前途

二十年前に金一弗の價を保ちたる銀圓が今は僅に四十七八仙の相場にて賣買せらるゝに至り銀の前途は一見絶望の觀なきに非ざれども又退て考へれば今日の此墓落は却て歐米各國をして金單本位の不利を悟らしめ彼の萬國兩貨制の實行に依て大に銀價を回復するの時機を速ならしむるの効ある可しとは過日の時事新報にも述べたる所なるが近着の歐米諸新聞紙に就て彼の經濟社會の狀況を窺ふに登す我輩の立言の誤らざるを證するものゝ如し即ち第一に獨逸帝國政府は去二月下旬に銀問題の調査委員を設け大藏大臣ボサドースキイ氏を以て委員長に任じたり同氏は委員會に臨席して議長の羇子に就くに當り「獨逸帝國政府は目下自國に金本位を採用しつゝあるにも拘はらず近來銀の非常に下落するを見て掛念に堪へず今日は正に銀問題に就て最も充分なる調査を爲さゞる可らざるの時なるを認ひ」云々の演説を爲したりと云へば同政府が金單本位に滿足せずして銀價の回復を希望するは喋々を俟たずして明なり又佛蘭西にては未だ公然委員の設あらざれども國民一般に金價騰貴、銀價下落の爲めには非常の損害を蒙り衆心一致に兩貨制の實行を望むの有樣にして現に同國にて最も有力なる「佛蘭西農會」の如きは過般大會を開て銀問題を議し銀價回復の急要なる旨を議決し尚ほ又羅典同盟（即ち佛蘭西、伊太利、瑞西、白耳義諸國の同盟）と北米合衆國と連合して兩貨制を實行すれば以て全世界の金銀相場を一定するを得べしとの事を議決したりと云ふ其他歐洲諸國は何れも金銀價の變動に由て多少の損失を蒙らざる者なく就中、農民勢働者の類は最も直接に困難を感するものなれば各國共に兩貨制に對しては固より異存ある可き筈なけれども唯如何にせん今日までは經濟社會の大王たる英國が頑然金本位を守りて動かざるを以て他の國々は皆これに抵抗するの勇氣なく心ならずも錢を金國の中に揚げて窮に英の鼻息を窺ひ居たるみとなるに然るに近頃に至り形勢頓に一變して金の本城たる英國内に有力なる兩貨制の主張者を現出し倫敦は端なくも金銀論の大戰場に化し去らんとするの機あるを由々しき事變なれ元來英國にて有名なる經濟學者は壓く兩貨制論者なりと云はるゝ程にて學問社會には兩貨制論の勢頗る盛なりと雖も實際に商賈金融の全權を握る富豪者輩は大概皆通貨の騰貴に由て直接の利益を享る者共なれば兎角に金本位を喜ぶの意あるにゞ政治家は素より此種族の歓心を得んことを勉めて他を思ふに遑あらず保守黨自由黨の區別なく苟も銀價維持の説を唱ふる者甚だ稀なりしに近來銀の下落如何にも激烈にして英國に負債ある銀貨國は元金の價却は勿論、利子の支拂にさへ差支へて殆んど破産の境に迫りたるもの多く殊に印度の如きは數年來困難に困難を重ねて最早如何ともす可らざるの慘狀に陷りたれば流石英國の富豪者も漸く實際の事情を悟りて斯くては却て結局自家の迷惑と爲るみとある可しとて茲に始めて銀の暴落を恐るゝの念を起したる者少なからず而して又海外貿易に從事する商人は爲替相場下落の爲めに東洋及び南米の諸銀國に向て物品輸出の路を失ひ手を束ねて空しく銀の騰貴を待つ者比々皆然らざるはなし過日倫敦商法會議所がブラッセル府の萬國貨幣會議を再びする爲め其準備を急ぐ可しとて政府に建議したるが如き（三月十六日時事新報）は即ち英國經濟社會の輿論を代表したるものにして決して輕々に看過す可らざる事件なり又實業者の中に漸く金單本位を厭ふの情を現はしたる其際に保守黨の政治家は好機會失ふ可らずとて大に兩貨制論を唱へて政府の印度政策を攻撃し自由黨の金銀問題に冷淡なるを責めて遂には此問題に由て現内閣を倒さんとまでの決心を定めたるものゝ如しと云ふ左れば通貨本位の撰擇は是れより英國政界の大問題と爲り國會議場の討論に金銀の火花を散すは期して待つ可きなり若しも英國にして果して兩貨制を承諾するときは合衆國は無論同意を表するに相違なかる可し何となれば合衆國の金貨論者の過半は絶對的に飽くまでも金單本位を良しとする者に非ずして唯米國一箇の力にて兩貨制を實行するの得策ならざるを信ずるまでに止まればなり英米兩國にして既に兩本位を採用する上は假令ひ他の國々の協力を請はざるも世界の金銀價を支配するは難きに非ず況んや前記の如く獨逸も佛蘭西も皆共に兩貨制を採用するの傾あるに於てをや我邦が今日銀價暴落の際に當りて銀の前途其だ多望なりと云ふは決して空妄の想像に非ざるなり

## 官報

○司法省告示第二十號
高松地方裁判所管内丸亀區裁判所四月二日ヨリ新築庁舎ニ移轉シ同日ヨリ事務取扱フ
明治二十七年三月二十九日　司法大臣　芳川顯正

○逓信省告示第八十六號
本月三十一日限左ノ郵便受取所ヲ廢止ス
明治二十七年三月二十九日　逓信大臣　伯爵黒田清隆
石狩國札幌郡新琴似村郵便受取所　石狩國札幌郡琴似村郵便受取所
後志國小樽郡朝里村郵便受取所　後志國高嶋郡成田村郵便受取所
石狩國勇拂郡新十津川村郵便受取所　石狩國札幌郡對雁村郵便受取所

○逓信省告示第八十七號
來四月十六日ヨリ大隅國大嶋郡蘭之嶋阿布木名郵便局ヲ同國同郡ほの嶋阿布木名村字平土野ニ移轉シ平土野郵便局ト改稱ス
明治二十七年三月二十九日　逓信大臣　伯爵黒田清隆

○逓信省告示第八十八號
本月三十日ヨリ鳴神國郡飯郡飯塚鎮道中車場電信取扱所ニ於テ左ノ事項ニ關シ公衆電報取扱ヲ開始ス
但其國電信局約款ニ據リ取扱フヘキ電報及歐文電報ハ取扱ハス
明治二十七年三月二十九日　逓信大臣　伯爵黒田清隆

一通信取扱時間　一般郵便電信局電信局ニ同シ
一電報直配達區域　飯塚町大字飯塚、同堀前、同堀田、穂波村大字秋松、同

一變して金の本城たる英國内に有力なる兩貨制の主張者を現出し倫敦は端なくも金銀論の大戰場に化し去らんとするの機あるを由々しき事變なれ元來英國にて有名なる經濟學者は壓く兩貨制論者なりと云はるゝ程にて學問社會には兩貨制論の勢頗る盛なりと雖も實際に商賈金融の全權を握る富豪者輩は大概皆通貨の騰貴に由て直接の利益を享る者共なれば兎角に金本位を喜ぶの意あるにゞ政治家は素より此種族の歓心を得んことを勉めて他を思ふに遑あらず保守黨自由黨の區別なく苟も銀價維持の説を唱ふる者甚だ稀なりしに近來銀の下落如何にも激烈にして英國に負債ある銀貨國は元金の價却は勿論、利子の支拂にさへ差支へて殆んど破産の境に迫りたるもの多く殊に印度の如きは數年來困難に困難を重ねて最早如何ともす可らざるの慘狀に陷りたれば流石英國の富豪者も漸く實際の事情を悟りて斯くては却て結局自家の迷惑と爲るみとある可しとて茲に始めて銀の暴落を恐るゝの念を起したる者少なからず而して又海外貿易に從事する商人は爲替相場下落の爲めに東洋及び南米の諸銀國に向て物品輸出の路を失ひ手を束ねて空しく銀の騰貴を待つ者比々皆然らざるはなし過日倫敦商法會議所がブラッセル府の萬國貨幣會議を再びする爲め其準備を急ぐ可しとて政府に建議したるが如き（三月十六日時事新報）は即ち英國經濟社會の輿論を代表したるものにして決して輕々に看過す可らざる事件なり又實業者の中に漸く金單本位を厭ふの情を現はしたる其際に保守黨の政治家は好機會失ふ可らずとて大に兩貨制論を唱へて政府の印度政策を攻撃し自由黨の金銀問題に冷淡なるを責めて遂には此問題に由て現内閣を倒さんとまでの決心を定めたるものゝ如しと云ふ左れば通貨本位の撰擇は是れより英國政界の大問題と爲り國會議場の討論に金銀の火花を散すは期して待つ可きなり若しも英國にして果して兩貨制を承諾するときは合衆國は無論同意を表するに相違なかる可し何となれば合衆國の金貨論者の過半は絶對的に飽くまでも金單本位を良しとする者に非ずして唯米國一箇の力にて兩貨制を實行するの得策ならざるを信ずるまでに止まればなり英米兩國にして既に兩本位を採用する上は假令ひ他の國々の協力を請はざるも世界の金銀價を支配するは難きに非ず況んや前記の如く獨逸も佛蘭西も皆共に兩貨制を採用するの傾あるに於てをや我邦が今日銀價暴落の際に當りて銀の前途其だ多望なりと云ふは決して空妄の想像に非ざるなり

●明治座（〇）り年齢一歳長職に居る人と犬を制し清正死すとも片桐け取れたり〇不評の方〇米らんが恩ひ入女の正桂の局の中間角内〇番附に照らさ君姿色を以て坐つゝ僅貫目の姪品格もあ金に例の伸べけの役〇左國ず一命を捨てる仕惡き役德川内府に對二役狸原藤政其見せ場を失められヤ、御たるゝか貫門を掛け詰め寄双方問答の末らば神とも崇花道の引込み中嘉「義經千本

●四國自由二十五日高知きたるが同地て劇舞踊、要於て各縣總代盛なる酒肆を賀意を表した

○兵庫運河に記載したる井守正、近藤書を差出した七千株に分ち區別し發起人氏三百株藻川を公衆より募込まし入船料は日上は十石毎に徴收し尚ほ沿社の收支計算

○な

思除一本所ニ於テハ明治二十七年三月二十九日正午ヲ期ス又昨日の官報にて發表ス

## 雜

## 時事新報に掲載詳細なる商況物價の報告あり